

第8回門真市学校適正配置審議会議事録

開催日時 令和2年2月28日（金） 午後2時～午後2時56分

開催場所 市役所本館2階 大会議室

出席者 横山俊祐、浦嶋敏之、西孝一郎、吉岡眞知子、松崎淳子、村上空織、日置芳太郎、上村梨恵、加藤諭、濱崎恵子、国吉孝、上甲尚、明智威久

事務局 久木元教育長、邊田副教育長、満永教育部長、西口管理監、中野教育部次長兼教育総務課長、渡辺教育総務課参事、前馬教育総務課副参事、長教育総務課主任

傍聴者 1名

議 事

○開催

事務局

定刻となりましたので、第8回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。

本日はご多忙にもかかわらず、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、委員16名中13名がご参加いただいております。門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

本日は、大田委員、後藤委員、清水委員はご都合がつかず、欠席となっております。

なお、後日議事録を作成するため、会議を録音させていただいております。ご発言に際しては、お手元のマイクのボタンを押していただきますようお願い申し上げます。

次に、お手元の資料の確認をしたいと思います。

1点目 会議次第

2点目 答申（案）

3点目 答申（案）の主な修正点（第7回審議会の審議を受けて）

となっております。すべてそろっておりますでしょうか。

それでは、おそろいの方ですので、進めさせていただきます。
以降の進行は、会長にお願いしたいと思います。
会長よろしくおねがいします。

会長

みなさん、こんにちは。コロナウイルスというものは斯くも人々を混乱させるものかということを実感してきております。本日は異様な雰囲気の中での開催となっておりますが、第8回、最後の審議会を開催したいと思います。本日の議題ですけれども、前回7回目に、皆さんに答申(案)についてご検討いただいて、てにをはの細かいところから用語の使い方、それから文章の内容まで、逐一ご検討いただいて、それを修正して、本日の案となっております。本日はこの最終の答申(案)についてもう一度確認をするということで、事務局から説明があると思いますが、それを聞きながら、読みながら最後の確認作業をして、それで問題なければ最終的な答申として、本日教育長にお渡しするというにしたいと思っております。そのような中で、前回の審議会以降に学識の委員の先生からもいろいろご意見いただいて、修正箇所が出ておりますので、それも含めて事務局から説明をしていただいて、修正箇所、本文の確認をしていただくということで今回進めていきますのでよろしくお願いたします。

それではまず、答申(案)と答申(案)の修正点について、事務局から説明をお願いします。

事務局

失礼します。それでは事務局の方から、第7回で皆様に答申(案)をご検討いただき、そこで出た意見を反映し修正したもの、それから、学識の先生方にご意見いただき修正した箇所を説明させていただきます。

本日お手元に置いている答申(案)につきましても、前回の意見を反映させた、最終の答申(案)となっております。主な修正箇所といたしましては、横向きの資料「答申(案)の主な修正点(第7回審議会の審議を受けて)」にまとめておりますので、こちらの資料と答申(案)をご覧になりながらお聞きいただければと思います。

では横向きの「答申(案)の主な修正点(第7回審議会の審議を受けて)」を1ページめくっていただき、上から順番に説明させていただきます。

まず1つ目の修正箇所といたしましては、5ページ「2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性(1) 門真のめざす教育」の箇所になります。5ページの1つ目の段落、「このような観点から・・・」で始まる文章につきまして、前回の会議において、施設一体型限定というように読めるというご意見があ

りましたので、修正させていただきます。「このような観点から、小中一貫校（義務教育学校）は、異年齢、異学年のつながりの中で育つことができる場所となり得るものであり、「縦のつながり」を創るための有効な手段の1つであると考えられます。下級生にとっては、憧れの気持ちや将来の展望が持てるとともに、上級生にとっては、優しさや責任感が生まれるなど、双方にとって相乗効果があると考えられ、とりわけ、施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）は、9学年の子どもたちが同じ場所で共に過ごすということから、こうした効果がより一層高まると期待されます。」のように修正し、縦のつながりを創るには小中一貫校（義務教育学校）が効果的で、特にその中でも施設一体型は効果が高いと期待されるというご議論いただいた内容に即して修正させていただきます。

続いて2点目です。7ページの「【図2】門真のめざすこれからの学校づくり」については、これまでの図では、快適で楽しく過ごせる場としての学校づくりの観点が「人とのつながりの中で育つ学校づくり」と「これからの時代、これからの門真に対応した学校づくり」の観点も含め、全体を包含していることがわかり辛いということで、レイアウトを今回のような形に修正いたしました。図の後ろにある黒く丸くなっている部分を前回よりも全体を包含しているようなイメージがしやすいよう修正いたしました。

3点目に移ります。1ページめくっていただき、8ページです。「②これからの時代、これからの門真に対応した学校づくり」の1つ目の丸印、「めざす教育の軸を踏まえた学校づくり」の部分のめざす子ども像の「こ」はこれまでの教育委員会や学校での使用実態から漢字の「子」といたしました。

4点目、同じく8ページの丸印、「新しい学びのあり方に対応した学校づくり」です。前回、タイトルと内容の整合性等のご意見があり、ご議論いただきましたので、議論いただいた内容のとおり修正いたしました。修正後の内容を読み上げますと「新しい学びのあり方に対応した学校づくり 主体的・対話的で深い学びといった新しい学びのあり方に対応した、学ぶ意欲を高める様々な空間や機能のある学校」となります。

5点目、10ページ「3 学校の再編にあたっての基本的な考え方」の中での修正箇所となります。「(1)「人とのつながりを創っていく」ための検討 ①児童・生徒数を考慮した検討」において、児童・生徒のつながりは「横」だけでなく「縦」もあるというご意見でしたので、「縦のつながり」を追加しました。

6点目も同じく10ページ、(1)の「②校区の広さ（人的資源を含む）を考慮した検討」において、地域のよき大人は地域で生きる人々のほうが良いというご意見でしたのでそのように修正いたしました。

続いて11ページ「(3)「快適で楽しく過ごせる学校」に向けての検討」の箇所、「改修や建替えを検討する時期になっている」では少し弱いのではないかと

というお話があり、ご議論いただいた「改修や建替えを行う時期に来ている」に修正しております。修正前は建替えや改修、修正後は改修や建替えとなっておりますが、文書全体を見直し、他の部分との整合性を見た結果、改修や建替えの順序で統一し修正しております。

続いて12ページ「4 具体的提言」についてです。まず(1)につきましては、つながりの中には横だけではなく縦もあるというご意見を反映し、修正させていただきましたことから、「人とのつながりを創っていく」観点で、縦のつながりについても付け加えております。また、校区の地理的な状況等がわからない方が見てもわかるよう、文章の並びを少し入れ替えさせていただき、わかりやすい文章とさせていただきました。

9点目、13ページ目の(2)となります。こちらのページにつきましては、前回、小中交流の難しさといった具体的な文言ではなく、つながりの部分で表現することができないかというご議論を頂きましたので、6年間で創られたつながりが希薄となるという表現といたしました。また、こちらについても(1)同様、地理的状況や、進学状況等がわからない方が見てもなるべくわかりやすくなるよう、文言等を1部修正させていただきました。

続いて14ページ、10点目になります。こちら「人とのつながりを創っていく」という観点において、(1)同様「縦のつながり」を加えております。その他、ご指摘いただいた箇所についても、委員の先生方のご意見も聞きながら、記載のとおり修正させていただいております。

具体的提言(1)(2)(3)に関わることとして、11点目として挙げております。これまではページの最初に四角枠で結論が記載されているレイアウトとなっておりますが、文言の修正等を行っている中で、結論が四角で囲った枠内と文中に2度登場するという状況がありました。審議会での議論の経緯を考えると、まず、門真の現状やそのためにどのような教育が必要で、どんな学校が必要なのかといった議論がなされ、その上で様々な視点から検討した結果、結論が出されておりますので、審議会での議論の流れに沿って文章を記載し、文中に結論を書き、何が結論かわかるよう下線で強調させていただきました。

続いて12点目、15ページの5になります。こちらは項目の順番を議論いただいたとおり修正しました。

最後に13、14点目としまして、資料編について、本日はお手元にはございませんが、ご意見いただいたとおり修正しております。

以上が主な修正点となります。こちらに記載していない軽微な修正等につきましても、ご意見いただいたとおり修正しておりますので、皆様のご議論を受けての最終答申(案)となっているかと思っております。この修正したもので問題なければ、最終の答申となりますのでどうぞよろしく願いいたします。

会長

ありがとうございました。前回の議論で出てきたいろんな修正点について、修正前と修正後ということで対照表を作っていただいて、このように変わったということがお判りいただいたと思います。皆さんが前回発言されたこと、あるいはご指摘いただいたことで、修正後がまだ不十分であるとか、少し気になるところとか、あるいはこうしたほうがもっと良くなるのではというようなところがありましたらご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

《特に修正等の意見は無し》

会長

特にご意見無いようですので、本日のこの修正後の確認で皆さんご了承いただいたということで、この修正後のものの（案）を取っていただいて、最終的な答申にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

委員

はい。

会長

ありがとうございます。では、これを答申としてお渡しするということになりましたので、最後に教育長にこれを手交したいと思いますので、事務局の方で準備をお願いいたします。

《手交の準備》

事務局

それでは答申書の手交に移らせていただきます。久木元教育長お願いいたします。

会長

答申書。門真市教育委員会 教育長 久木元 秀平 様。門真市学校適正配置審議会 会長 横山 俊祐。門真のめざす教育とこれからの学校づくりについて（答申）。平成31年2月21日門教総第776号にて門真市教育委員会教育長から諮問のありました「門真市学校適正配置審議会第3次答申における提言の再検討について」及び「小中一貫校」、「義務教育学校」等の考え方も含めた、今後の小・中学校のあり方について」について、ここに答申します。

どうぞよろしく願いいたします。

教育長

ありがとうございます。委員の皆様方には、全8回の長期にわたり慎重にご審議いただき、ありがとうございました。今回の答申でございますが、従来までの子どもの数が減ったという数の議論だけでなく、本当に子どもたちに今何が必要なのかということについて、社会環境の変化も見据えながらご審議いただいたと思っております。この審議会で議論いただいた内容は、これからの施策に活かしていけるようなヒントに富んだものだったように感じております。今後この答申をしっかりと受け止めながら、具体化に向けて邁進してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本当にどうもありがとうございました。

会長

ありがとうございました。事務局におかれましては、この答申を基に、これからより良い門真の学校づくりに邁進していただけるということですので、楽しみにしております。

最後になりましたけれども、これまで8回にわたりまして、皆様方と熱い真摯な議論を重ねていただいて、おかげさまで非常に立派で、かつ、ほかの自治体にはないような門真独自の答申に仕上がったのではないかと感じております。

最後に、委員の皆様お一人ずつせっかくの機会ですので、この会に参加していただいて、感想ですとか、あるいは答申についての気持ちとかご感想がございましたら、一言ずつお願いしたいのですが、よろしく願いいたします。

委員

回を重ねて素晴らしい答申ができたと思っております。私もいろいろな審議会などに出ていますが、こんなにきめ細かく点検と言いますか、確認しながら進めてこられた。そのおかげで、この素晴らしい答申ができたのではないかと感じております。先ほど会長もおっしゃられたように、学校づくりが地域づくり。門真市として、これを確認して素晴らしい魅力ある街になってくれるであろうと期待しておりますので、少しずつ実行に移していただけるようお願いいたします。最後に、このようにきめ細かく乗り切ったのは、会長の鋭いつっこみと、ポイントや課題を言っていたからかなと思っております。ありがとうございました。

委員

私の大嫌いなマスクをしておりますので、頭脳がさえていないと思いますが。

個人的なことですが、私は今年で80歳になりました。青少年育成協議会連合会の会長として約25年の間頑張らせていただいた結果、本当に素晴らしい門真の素晴らしい子どもたちを1人でも多く輩出したいなど、夢をもって頑張っております。今後とも、学校も含めてですが、児童生徒たちがより素晴らしくなるように思っております。日々素晴らしい子どもたちに元気を頂いております。そんなことで、みなさんの素晴らしいご意見を聞きながら、私自身も勉強になったかなと思っております。少しでも門真のお役に立てたかなと。

本日は、皆様とともに最後の会を迎えられて、楽しかったな、勉強になったなと。池田にみんなで視察に行ったのは素晴らしかったなと、このように思っております。

本当にありがとうございました。以上です。

委員

私も、この場に参加させていただいて、本当に光栄に思います。ありがとうございました。とても勉強になりました。子どもたちが良い環境で勉強できることを願って、楽しみにしております。

ありがとうございました。

委員

自分の子どもが通っているときであれば、一番良かったなと思いましたが、私も門真が好きですし、息子が2人いるのですが将来は門真に住んでほしいと思います。その子たちの子どもが通うだろうと思ったら、本気で考えられましたので、この審議会に参加させていただいてとても楽しかったですし、将来の門真を良くしていただきたいです。

ありがとうございました。

委員

皆さんありがとうございました。今後、学校づくりを進めて行くなかで、地域にお話に行くなかで、反対を受けたりだとか、たくさん大変なところがあると思うのですが、ここで審議したことが実を結ぶことが一番なので、そういったところでも、きめ細かく説明などしていただきながら、学校づくりをして行っただけならなというふうに思っています。学校が出来上がったときに、外面だけいいものではなくて、中身のある学校として開校して行ってほしいという願いを持っておりますので、よろしくお願い致します。

委員

皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。

私も、この会に参加させていただきまして、初めて知ったことであったり、知らなかったことが結構あったのですが、今回の審議会を通して、地域との関係性を保ったままという、門真のいい特徴を活かした学校づくりというのが、目指せるのではないかなというふうに思っております。子どもたちは学ぶ環境が変わっていくことによって、学習意欲が高まっていったり、門真の子どもたちの成績が上がっていくようにつながっていったらいいかなと思っております。今回は地域が限定されていますけれども、今後はいろいろなところ、他の地域とかも出てくるとは思うのですが、そういったかたちで進めて行ければなあと思いましたので、ありがとうございました。

委員

ありがとうございました。本当にPTAの役をしていなければ、こういう会にも参加できなかったと思いますので、いろいろ大変でしたがすごく勉強になりました。本当にありがとうございました。

今、自分の子どもが通っている砂子小学校と、脇田小学校と第四中学校が、今回の答申の対象の地域にあたるということで、今後どうなっていくのか楽しみもありつつ、教育委員会の方々は地域のおっちゃん、おばちゃんたちの反対を受けながら、多分大変な想いをされるのではないかなと思っておりますが、どんどん協議し合っていて、皆さんでより良いものをつくれるように、なんとか頑張って将来のために、みんなで今を乗り越えようという気持ちで頑張っていけたらと思うので、本当に勉強になりました。

ありがとうございました。お疲れ様でした。

委員

失礼します。まずは委員の皆様大変お世話になりました。また、事務局の皆様方、どうもありがとうございました。

私が最初に他市から来たということで、よく分かっていませんというかたちで紹介したつもりなのですが、この一年間この会に参加させていただいて、それぞれ立場は違うにしろ、やっぱり門真の子どもたちを第一に考え、いろいろなことを尊重しながら、ご意見や議論ができたことで、こういう皆様に支えられて子どもたちは頑張っているのだなということを再確認させてもらうかたちになったことが、自分は教頭の立場で第四中にいますけれども、もっと頑張らないといけないなという気持ちにさせていただきました。

いろいろな委員さんからご意見が出ていますとおり、これから多分、答申を頂い

たなかで、地域とのやり取りであったり、いろいろなことがあるかと思いますが、やはりそういったしっかりした学校を創っていただけたら、もし仮に、そこに私が務めさせてもらうことができましたら、頑張りたいと思いますし、違うのであれば、外からいろいろな違うかたちでサポートしていけたらと思っていますし、本当に子どもたちのことを思ってこうして議論させてもらったことを自分の教員生活のなかでもとてもプラスになったと思います。

本当に一年間どうもありがとうございました。

委員

お世話になりました。ありがとうございました。この会議に来るたびにいろいろな立場の方からいろいろな意見や考えが聞けて楽しく、なるほどそういう考え方もあるのかと、自分自身の参考にもなり良かったと思っています。

私自身門真の小中学校出身ですので、これから門真がどんな教育をめざしてどんな学校をつくるのかというところに携わることができて、誇りに思うし、嬉しく思います。

学校は、今新型コロナウイルスの関係で大変で、3年生は卒業式どうなるのか心配していたり、担任が号泣していたりします。そういうのを見るとハード面はもちろんですが、ソフト面としての中身、人と人とのつながりや温かみのあるような学校を創っていかないといけないと思うので、その辺りも考慮に入れてやって行ってほしいと思います。

私は、次の新しい学校ができるころには学校現場からは離れていると思いますが、見守っていきたいと思います。

委員

失礼します。今の話ですが、学校には残られているんじゃないかと思っています。

私は60歳で定年を迎え、今再任用校長として3年目を終えます。こういう関わり方もあるんじゃないかと思っています。

さて、今回の学校づくりの中で、私も微力ながら皆さんと関わることができて、楽しかった思い出ばかりです。今回の答申が、子どもにとって一番良いものになるように、それを踏まえた上で門真の教育がより高度に進化するように、また、子どもたちの教育環境がより良いものになるように、心より願っております。

参加させていただきありがとうございました。

委員

どうもありがとうございました。私は京都市から来させていただき、全く土地勘もない者ですが、この1年間、8回の会議を通して自分事になりました。最近

では、「門」という字を見るとやたらに反応してしまう自分がいて驚いています。

前回も言わせてもらいましたが、第2回の際に、会長が委員の皆さんに対し、門真の子どもたちにどんなことを考えているのかと意見を求められたことがあったかと思えます。あの時に人とのつながりということが出てきて、この門真の人懐っこい子どもたちをこれからどう育てていくのかということについて議論になったと思えます。

そこで出た人とのつながりが、本当にこの答申の最後まで貫く大きな大きな流れになったと思えます。あの時、会長が皆さんに振られたときは、恐ろしいことをされるなと思いましたが、あれで皆さんにとっても自分事になったのではないかなと思えます。私の中では、「神回」と呼んでいるところです。

また、この答申をまとめている中で、陰の力として教育委員会事務局の方たちが本当に一步一步積み重ねながらやっていただいたことに本当に感謝します。これでいったん門真とはご縁がなくなりますが、陰ながら門真の応援をしておりますので、どうぞよろしく願います。ありがとうございました。

副会長

失礼します。この会議に寄せていただいて良かったなと思っています。

自己紹介の時にも申し上げましたが、現在は大学に籍を置いています。府の教育委員会に居まして、その関係の中で門真市とはお付き合いがあります。

実際に一番良かったのは、地元の皆さんの子どもに対する熱い思い、学校に対する熱い願い、期待というものを、皆様はご自身が取り組まれている事実として語っておられたことで、私にはすごく思いが伝わってきたところです。

よく、このような会では、地域の自治組織が世代交代もあって課題があると言われますし、そのようなことも意見として挙がっていましたが、この会には若い人もおられますし、まだまだ大丈夫じゃないかなと思えました。

合わせて、先ほどもおっしゃっていましたが、事務局の思い。先ほど教育長の言葉にもありましたが、単なる数合わせじゃなくて、これをチャンスと捉えて、新しい教育をやっていきたいという思いを強く感じました。

その中で、この審議会の運営についてです。私はいろいろなところでこういった会に携わっていますが、この審議会は非常に透明性が高いと思います。先ほど手交の場面もみんなで見守りましたが、ここまで見せてくれることもなかなかありません。

会議を重ねる中で、前回の振り返りを必ず見やすいように整理していただいたことで、私も授業の中で学生の振り返りなんかもやりますけども、本当に無駄な時間を過ごすこともなく、効率的に、次々と深く議論ができたのではないかと思います。そういう環境をつくっていただいたので、会長を中心にぎっくばら

んに議論ができて、本当にほっとするような安心感のある会議だったんじゃないかなと思います。

最後になりますが、良いことばかりではないんですね。本当にいい答申になるためには、留意事項の一番に格上げされましたよね、是非、速やかに実行に移すように努力していただきたいと思います。

私も行政に携わっていた身として、このご時世、地域と議論したり、予算を確保したり、本当に大変だと思いますが、そこは期待したいなと思っています。お世話になり、ありがとうございました。

会長

どうも皆さんありがとうございました。

本当に8回があつという間に過ぎたという感じがしています。皆さんが本音を出して議論していただいて、それを事務局の皆さんが上手にまとめられるんですね。あの文才や表現力はすごいなと思いました。別の仕事に就いてもいいくらいです。本当にいろんな意見が出たものを整理して、毎回毎回、次の目標に向かって進められるようなものにしていただきました。

私たちの自由な議論と事務局の整理能力とが掛け合わさって、本当に良い答申になったんじゃないかと思います。ありがとうございました。

私はこの審議会のタイトルは適正配置審議会ということではありますが、適正配置で終わってはならないと思っています。この答申を契機として門真は新しい学校づくりに立ち向かっていくといった、新しい時代を拓くものとしてご理解し続けていただきたいと思います。

答申の骨子としては、2小1中の小中一貫校の設置、2小の統合、学区の再編など、まさに再配置に関することとなっておりますが、重要なのは、その中に込められております、人と人とのつながりですとか、学校をつくる上でのコンセプトや考え方だと思うんですね。そういったコンセプトをこれから肉付けしていただきたいと思います。

これから門真の学校について、どう配置するのかということは当然のことですから、どんな素晴らしい学校を創っていくのかということに向けて、この答申、あるいは皆様の議論を活かしていただければ、皆様にとっても本当にこの会に参加できて良かったなという実感も出ると思います。

事務局の皆さん、これから大変だと思いますが、是非頑張ってください。

最後になりましたが、拙い司会で皆さんにご迷惑をおかけしましたが、無事答申まで辿り着くことができました。本当にありがとうございました。

それでは以上を持ちまして、第8回門真市学校適正配置審議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。